



## ミャンマー：安全な仮設住宅建設のための能力開発ワークショップ

### ● 背景

サイクロン「ナルギス」は、2008年5月2-3日にかけて風速時速200kmもの強さでミャンマーを襲い、エーヤワディ（イラワジ）デルタ地域とミャンマー基幹都市かつ旧首都であるヤンゴンを駆け抜けました。エーヤワディ、ヤンゴン両管区は強大な高潮と重なったこともあり最もダメージが大きく、特にデルタ地域では全体の95%もの家屋が破壊されたと推定されています（国連推定被災人数：150万人以上）。この巨大サイクロンによる被害は、被災地域だけにとどまらず、災害リスクの高いあらゆる地域におけるコミュニティレベルでの総合的災害リスク軽減政策の必要性を改めて認識させる経験となりました。

### ● 復興過程における災害リスク軽減

自然災害は、もともと脆弱な状態にあるコミュニティに対しては絶大な被害を及ぼします。たった1度の災害により、何年にもわたるコミュニティの取組みの全てが無に帰す可能性すらあります。サイクロン「ナルギス」襲来時、ミャンマーの被災地域では尊い多くの命と莫大な財産が失われましたが、災害危険性に関する啓発活動、災害対応、防災建設技術の向上などについての日々の取り組みがあれば被害はもっと抑えられたと推測されます。そのため、トレーニングによる災害リスク軽減や警報システムの構築といったコミュニティ防災への取組みの推進は、被災の可能性の高い国では不可欠です。

また、災害リスク軽減という視点を復興過程の初期段階から組み込んでいくことによって、将来の災害リスクを最大限軽減することが可能となります。そのため、被災者向け仮設住宅建設能力の向上に関する取り組みは、コミュニティ防災の活動や災害リスク軽減のための活動の一部として、災害復興過程の枠組みに取り入れられることが望ましいと言えます。

ジャパン・プラットフォームの資金援助を受け、SEEDS Asiaはミャンマーのサイクロン「ナルギス」によって被害を受けた地域において、2008年8-9月に渡り、より安全な仮設住宅建設のためのトレーニングワークショップを開催しました。

### ● 安全な仮設住宅建設のためのトレーニングワークショップ

9月22-27日にわたり、2日間のトレーニングワークショップを(1)全国レベル、(2)管区レベル、(3)タウンシップレベルの3レベルに分けて実施しました。ミャンマー政府の全面的サポートを得て、SEEDS Asiaスタッフを中心に、姉妹団体のSEEDS India、現地技術者集団「ミャンマー工学会(MES)」および現地カウンターパートからの支援を受け、プレゼンテーションと実践的トレーニングを実施しました。このトレーニングプログラムでは、SEEDS Asia および SEEDS India の知識と経験の蓄積をベースにしつつ、さらに MES よりミャンマーの災害リスク管理の現状を反映させたプレゼンテーションを行いました。また、現地の環境、文化、技術能力水準を考慮した適切な政策、技術を取り入れることをトレーニング全体のコンセプトとして企図しました。

#### (1) 全国レベルワークショップ(9月22-23日、ヤンゴン市内MES施設にて開催)

このワークショップは、ミャンマーにおける将来的な災害リスク軽減について国家的政策レベルで議論する機会を提供することを最大の目的として、政府関係者、ヤンゴン管区のタウンシップ代表、建設大手企業の重役、ミャンマーで活動するINGOから100名以上の参加者を得て開催されました。ワークショップは社会福祉省・ムアン・ムアン・スウェ大臣からの再建への意気込みを込めた開会の辞でスタートし、続いてMESのウー・タン・ミン代表から冒頭の挨拶が行われ、さらに在ミャンマー日本国大使館・野川大使からSEEDSの活動に対する激励の言葉を頂きました。

ワークショップは、ミャンマーに適用可能な選択肢と手法、および、サイクロン「ナルギス」の被災地域での安全かつ迅速な仮設住宅建設を行うための条件の適切性に焦点を当てて進められました。神戸の震災や平成16年台風第23号「とかげ」など、その初期被災状況から災害後の再建と政策立案プロセスに至るまで被災経験を、SEEDS Asiaメンバーが紹介しました。トレーニングセッションにおいては、インドにおける過去の主要災害のケーススタディとその教訓、ミャンマーで現在着手しつつある災害管理の実施などが幅広く議論されました。



開会の辞：社会福祉省大臣



ワークショップ参加者の様子



SEEDS Asia プログラム・マネージャーによるプレゼンテーション



(2) 管区レベルワークショップ(9月24-25日、ヤンゴン市内MES施設にて開催)

このワークショップには、熟練した大工や現地の建設業に係るエンジニアなど、50名以上が管区内7タウンシップから参加し、家屋建設の原理原則や一般的規則がプレゼンテーション形式で紹介されました。また、現地の建設慣行をもとに建築した実寸大モデル家屋を使用しての現地トレーニングが行われ、参加者は災害対策のための多様な建設手法を学びました。最後には、参加者自身の今後の復習のため、そして職場の同僚とトレーニング内容を共有するために防災建築に関する参考資料が提供されました。



小型家屋模型を使用したプレゼンテーション



モデル住宅での現地トレーニング



参加者への参考資料配布

(3) タウンシップレベルワークショップ(9月26-27日、ヤンゴン地区最南部クンジャンゴン・タウンシップにて開催)

このワークショップは、周辺地域一帯の復興を担うエネルギー省の支援のもとに開催され、エネルギー省のディレクター・ジェネラル(No.3)による開会の挨拶によって開始されました。タウンシップからの熟練工や政府関係者等、合計50名以上の参加のもと、ケーススタディや図表を取り入れたプレゼンテーションを通して、災害に強い建設技術についての基礎が説明されました。災害による建築物への被害のメカニズムについてわかりやすく説明する為の小型家屋模型を使用したデモンストレーションは、参加者に特に好評でした。



小型家屋模型を使用したプレゼンテーション



プレゼンテーションを聴く参加者



SEEDS Asia プログラム・マネージャーによるフォーカス・グループ・ディスカッション

● アンケートにみる参加者の積極的姿勢と高評価—今後の展開へ

全国レベルワークショップの参加者からは、国家レベルのガイドライン策定も視野に入れた、本事業と同様のトレーニングワークショップの再開を希望する声も多く聞かれました。また管区レベルでのトレーニング参加者からは、基本的かつ重要な点をしっかりおさえた説明内容が好評を得、「今後は参加者自身の居住地で知識を普及したい」といった建設的な意見も見受けられました。タウンシップレベルのワークショップ参加者からは、高潮に襲われやすいデルタ・沿岸地域の住民に対する知識の普及を SEEDS Asia に求める声が挙がりました。

なお、ワークショップ実施期間中の SEEDS Asia の取組みがミャンマー政府に認められ、首相が代表を務める中央災害管理委員会から、SEEDS Asia による更なる復興活動への正式な活動許可が付与されました。今回の参加者からの意見をもとに SEEDS Asia は目下今回の第一フェーズの活動を振り返っており、早期復興と災害に強いコミュニティ建設のためにミャンマーの他の被災地域でもトレーニングなどの活動を展開する準備をしています。

● SEEDS Asia とは

SEEDS Asia(神戸市)は被害の対象となり易いコミュニティを、災害に強いコミュニティにするお手伝いをする NGO 団体です。私たちは「コミュニティ」に基盤をおき、意識啓発、トレーニングと実践、最も災害に弱い人々に対する適切な手法と技術の提供、知識と技能の共有、実践者同士の繋がりの推進といった活動を通じて、命の損失と被害による苦しみをできる限り予防するために、災害対応能力向上の観点からコミュニティ支援活動をしています。

SEEDS Asia は「人間の安全保障」という包括的枠組みの中で、災害管理と環境保護を発展させ、これらの相互関係に重要性を置きつつ、アジア太平洋地域の安全なコミュニティ創造を目指しています。インドと日本の両国において正式に NPO 登録した SEEDS は、専門性の高いメンバーによって構成され、コミュニティ防災を推進するため、多岐にわたる知識を包括的に蓄積しています。

SEEDS Asia は、2006年9月に正式に発足して以来、姉妹団体である SEEDS India が培ってきた専門性のみならず、環境と防災を組み合わせたコンセプトのもとで、被害を受けやすいコミュニティを支援するためにアジア太平洋地域で活動しています。

ホームページ : [www.seedsasia.org](http://www.seedsasia.org)

お問い合わせ : Eメール : [rep@seedsasia.org](mailto:rep@seedsasia.org)、電話 : 078-766-9412

担当 : 小林 (プログラム・マネージャー)